

# 沖縄・意見広告運動ニュース

振替口座／加入者名：意見広告  
口座番号：00920-3-281870  
2017.2.26 (SUN)  
東京：03(6382)6537 FAX:03(6382)6538 大阪：06(6328)5677 FAX:06(6328)5777

■東京連絡先 〒164-0001  
東京都中野区中野2-23-1 ニューグリーンビル301号 協同センター東京 気付  
■関西連絡先 〒533-0032  
大阪市東淀川区淡路3-6-31 協同会館アソシエ内

## 緊急のお願い

### いよいよ正念場となった辺野古の闘いについて

全国の沖縄意見広告ご賛同者の皆様へ

たゆまぬ奮闘と沖縄意見広告運動へのご理解、ご協力に事務局員一同より深く感謝申し上げます。

立春とは申せ、まだ余寒の日々が続いておりますが、皆様にはお変わり有りませんでしょうか。

さて、沖縄ではうりずんの季節をむかえ一段と緑が映えるなか、遂に2月6日、沖縄防衛施設局が辺野古の海上工事再開に着手しました。

辺野古では海上でも、キャンプ・シュワブゲート前でも連日、新基地建設反対の激しい抗議行動が非暴力で行なわれています。安倍首相は自らアメリカに赴き、諸外国からひんしゅくを受けている排外主義者トランプ米大統領の「唯一」のパートナーとしてすりより、「辺野古が唯一」のお墨付きをもらうという、恥さらしな外交姿勢を世界に曝け出しました。

2015年、「戦後70年、止めよう辺野古新基地建設！」の県民大会で翁長県知事は「うちなーんちゅ、うしゅーていないびらんど」（沖縄をないがしろにはしてはいけませんよ）と安倍政権と私たちに警告し一考をうながしました。

2016年、米軍属によるおぞましい女性暴行殺人事件に対する抗議の県民大会で稲嶺名護市長は6万5千余の参加者の前で、女性を守れなかった、「風かたか」をしてやれなかったと涙ながらに訴えました。この悲痛な叫びに私たちはどれ程答えることができたでしょうか。翁長沖縄県知事は「今が踏ん張りどころ」と県民に檄を發しています。

昨年の第七期では、小学生の兄妹が「おじーの故郷がかわいそう」と、大切なお年玉から賛同してくださいました。又ある高齢の女性は「現地に行きたいが行けないので」と介護施設から賛同金を送ってくださいました。「年金生活なので少額ですが」と、「辺野古反対」のせいっぱいの力強い決意のこもった賛同もいただきました。

沖縄との連帯のしかたは様々あります。直接現地に行く方法や、地元での集会や、示威行動、ピラまき宣伝をする等の方法もあります。沖縄に向けて連帯のカンパ金を送る等の方法もあります。その中で私たちの沖縄意見広告運動は、沖縄に思いを寄せる皆さんが誰でも何処からでも「平和な沖縄を願う」声を、新聞紙面を使って全国規模でアピールできる運動です。

沖縄に思いを寄せる皆さん。今こそ、ご家族、ご近所、職場、全国のありとあらゆる場所で多くの方々に声をかけ、「辺野古ノー」への賛同の輪を広げましょう。

全国の声第八期に集約し、昨年9千人を超える1万人規模の大きな声で「辺野古新基地反対！普天間基地即時閉鎖・返還！海兵隊は撤退を！」を力強く訴えて行きましょう。どうか熱いご支援の賛同をお願い申し上げます！

2017年2月26日

第八期沖縄・意見広告運動 事務局

#### 嘉手納基地爆音訴訟

##### 那覇地裁支部

### 国に302億円賠償を命令 しかし飛行差し止めは認めず

米軍嘉手納基地の周辺住民約2万2000人が米軍機による騒音被害の賠償や夜間・深夜の飛行差し止めを求めた第三次嘉手納爆音訴訟の判決が2月23日、那覇地裁沖縄支部であった。藤倉徹也裁判長は、過去の騒音被害の違法性を認め、国に総額約302億円の損害賠償の支払いを命じた。これは第二次訴訟判決の時よりも算定基準を2倍に引き上げ、基地被害に対する賠償総額としては過去最高となった。また前回認めなかった一部地域の賠償も認めた。しかし、爆音の違法性を認めながらも

飛行差し止めそのものは認めなかった。また将来の騒音に対する賠償も却下した。

原告の健康被害について判決は「高血圧症など健康上の悪影響リスクが増大し、法律上保護に値する利益を優先するものといえる」「子どもへの影響、戦争経験者には戦争時の記憶をよみがえらせ不安を与える」と認めながら、一方では飛行差し止めについては第一次、第二次と同様、「日本政府の指揮・命令権が及ばない第三者の行為」を理由に却下した。

「国民を守る」ためにあるはずの日本の司法が米軍による加害の事実を認めながらも加害行為を差し止めることができないならば、一体何のための司法なのか。今回の判決もまた、「治外法権」に等しい日米地位協定の問題点を浮き彫りにしている。



「ジュゴンを守れ！」工事に反対する市民たち

### 卑劣！防衛局が県の制止を無視し、作業開始！

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古への新基地建設で、沖縄防衛局は2月6日午前8時40分ごろ、海上の本体工事に着手した。5日に名護市大浦湾の臨時制限区域に到着した作業用の船団のうち、午前9時15分ごろ、大型クレーン船1隻が土のうとみられるものをつり上げる作業を始めた。そのクレーン船は大型コンクリートブロックを積んだ台船からクレーン船にブロックを積み替えた。

県は投下による海底への影響を確認するため、防衛局に詳細な情報を照会中で、確認を終えるまで投下しないよう求めているが、防衛局は3日に県に回答を出したことで説明を打ち切り、作業を強行した。新基地建設問題は海上での本体工事着手という節目を迎えた。

また大型特殊船「ボセイドン1」（4015トン）が昨年未完了の海底ボーリング（掘削）調査を開始。海上工事は、護岸造成で生じる汚れの拡散を防ぐ汚濁防止膜（オイルフェンス）を海中に張る。最初にオイルフェンスを固定するため、重量1・2～13・9トンの大型コンクリートブロックを4地点に計228個海底に投下する。

米軍キャンプ・シュワブ沿岸の砂浜近くに停泊している大型クレーン船では6日午前7時前から明かりがともり、船上に作業員がいるのが確認された。午前8時40分ごろからクレーンが上がるのが確認された。

新基地建設に反対する市民らの抗議船6隻、カヌー16艇は午前8時すぎに臨時制限区域付近に到着。午前9時現在、海上フェンスの外側で抗議行動を行なった。

### われわれは絶対にあきらめない（稲嶺市長）

キャンプ・シュワブゲート前では6日午前より、市民ら100人以上が抗議行動を行ない、海上作業員をゲート内に入れよう座り込む中、作業員を乗せた車が午前8時15分ごろ、機動隊の誘導で出口側から入る様子が確認された。

急きょ駆け付けた稲嶺進名護市長がマイクを握り、「大浦湾の多様な生物同様、うちなーんちゅの生存がいま脅かされようとしている。現状は普通でない。それでもわれわれは絶対にあきらめない。われわれ一人ひとりの力で明日の希望を勝ち取ろう」と座り込みをする市民に呼び掛けた。

沖縄防衛局による海上工事糾弾！  
辺野古新基地2月6日、本体工事着手！

# 山城博治さんらの釈放を!

国際人権団体 アムネスティも政府に要求

## ■沖縄では連日の抗議行動

山城さんが微罪で逮捕されてから4ヶ月。拘留を3ヶ月以上にも引き延ばすのは、民主国家には許されない不当な人権侵害だ。国際人権団体アムネスティ・インターナショナルも即時釈放を求める声明を発表している。

沖縄では連日の抗議行動が行われている。1月16日には那覇地裁前で抗議集会が行われ400人が釈放を求めた。また17日には2万9000筆の署名を提出した。



山城さんらの釈放を要求する署名を裁判所に提出。写真左は沖縄意見広告運動代表世話人で元参議院議員の山内徳信さん

## ■東京でも院内集会に400

東京では1月12日、鎌田慧さん、澤地久枝さん、佐高信さん、落合恵子さん、小山内美江子さんの主催により参議院議員会館にて山城博治さんらの釈放を求める院内集会が行われ400名近くの市民が詰めかけた。

山城さんの釈放を求める署名が全世界66カ国から1万6448筆も寄せられていることが報告された。

最初に登壇した落合恵子さんは「沖縄で起きることは東京で起きる。東京で起きることは福島で起きる。福島で起きることはまたどこかで起きる。どこかで歯止めを」と述べ、ローザ・ルクセンブルクを引用し「流されなくてもいい涙が流されることは罪悪である」と語った。

日本共産党の仁比聡平参議院議員、民進党の近藤昭一衆議院議員、社会民主党の福島みずほ参議院議員らが次々と登壇し発言。

鎌田慧さんは、山城さんの長期拘留・接見禁止の実態を「異常事態」と糾弾。またマルティン・ニーメラーの詩を引用し「無関心でいるとやがて我々の日常生活がすべて監視されてゆく」と指摘。「力を合わせてひとりの逮捕も認めない運動に取り組んでいきたい」と結んだ。

刑事法学者で東京造形大学の前田朗教授が発言。昨年12月19日、国連総会で「平和への権利国連宣言」が採択されたが、日本政府は反対投票をした。日本のメディアは全くそれを報道しない。その1ヶ月前には核兵器禁止条約のための外交交渉にも日本政府は反対した。原爆被爆を体験した国家が平和への権利宣言を拒否し核武装に賛成する



2月24日に沖縄でおこなわれた集会

という、とんでもない事が起こっている。私たちは沖縄に基地を押し付けている、私たちが試されている、と訴えた。

佐高信さんは、戊辰戦争と近年の選挙の因果関係などをユーモアを交えながら語り、最後には小林一茶の句を引用して「そのけそのけ国家が通る、にしてはだめだ」と結んだ。

沖縄現地と電話でつなぎ、山城さん逮捕当時の状況が伝えられた。安法制違憲訴訟を闘っている弁護士寺井一弘さん、平和フォーラムの藤本泰成さん、国際民主法律家協会に所属する青山学院大学教授の新倉修さんらのあいさつ。新宿で平和スタンディングを続ける大木晴子さんが山城さんの病気の悪化を心配して名護署に行き、粘り強い交渉の末、靴下とハンカチを差し入れた事を報告した。



1月12日、山城さんらの釈放を求めて参議院議員会館で開催された院内集会には400名近くの市民が駆けつけた。

## 2月20日、最高裁が山城さんの保釈認めず

沖縄意見広告運動全国世話人で沖縄平和運動センター議長でもある山城博治さんが公務執行妨害罪などで昨年10月に逮捕されてから4ヶ月が経過した2月20日、最高裁第3小法廷(大谷剛彦裁判長)は保釈請求を却下した那覇地裁の決定への被告側準抗告を棄却した。

基地周辺における山城さんの行動は警察・公安によって常にビデオ撮影されており、証拠隠滅の恐れなどもまったく存在しない。にもかかわらず4ヶ月間もの長期拘留を続けるのは反対運動そのものをつぶす目的からであり、極めて不当な判決と言わざるを得ない。また重篤な血液の病気に罹っている山城さんを長期拘留するのは人道的にも許しがたい野蛮な処置である。山城さんらの釈放のために声をあげよう!

連帯労組関西生コン支部・沖縄意見広告キャラバン隊

# 沖縄・九州各地を歴訪

沖縄意見広告西日本キャラバン隊は、2月13日大阪を出発し、沖縄、九州、中国、四国をまわるキャラバンコースを巡ってきました。沖縄県平和センターや全港湾、辺野古で座り込みの市民など各地の人々と交流してまいりました。



平和運動センターを表敬訪問



辺野古・強化されたフェンス



意見広告の旗をかかげて沖縄防衛局へ抗議



佐賀市の反原発集会に参加



13日

那覇の埠頭にある全港湾事務所を訪問



14日

拘留所へ博治さん激励行動



15日

辺野古の座り込みに参加



15日

米軍属による殺人の犠牲者に献花



19日

全港湾長崎支部を表敬訪問